

デイケア通信

花 東

熱帯魚水槽 立ち上げ

今年の夏は館林記念病院 総合リハビリテーションに新しい仲間がやってきました。それは、涼しげな姿をした熱帯魚です。

熱帯魚の水槽

熱帯魚が入った直後の水槽の様子です。魚たちは新しい環境に慣れないためか、水槽の奥の方で落ち着きなく泳いでいるように見えます。

水草も植え付けたばかりで草丈が低く、少しさみしい感じです。これから伸びて魚たちの隠れ家になるような、ジャングルになる予定です。



熱帯魚水槽を設置するというきっかけは、ご利用様との会話からでした。

このご利用様は、若い頃、お仕事も忙しい中、熱帯魚の水槽を多数所有して綺麗な魚を飼育されていたとお話して下さいました。今後は“また何か飼ってみたいなあ”というご希望も添えられていました。このお話を聞き、身体に残る症状を抱えながらも、心がわくわくとする様な（趣味的な）活動を再び取り戻す自信を持ってもらいたいと感じました。

そうはいつでも、ご自宅で急に熱帯魚の飼育を再開することは難しいと思います。そのため、DIYで水槽の作業を行う事や他者に知識を伝えるという活動を通して、魚の飼育の楽しさや感覚を取り戻すことができないかと考えました。

それだけでなく、職員自身、水槽の立ち上げは初めてのことで、何から始めて良いのか分かりません。そのため、水槽の大きさや置き場所、飼育できる熱帯魚の種類、必要な道具等々… ご利用様に教えて頂きながら準備を進め、7月の初旬には上の写真の状態まで作業を進めることができました。

水槽を設置して、水草を植えて、熱帯魚を入れるという手順で進んできましたが、水槽を置いた時点から、「何が入るの?」「いつから?」など利用者の皆様は興味津々のご様子。

飼育している熱帯魚は“カージナルテトラ”という種類です。大きさはメダカ位で、体に青と赤の光るラインが入っています。近くで眺めるとキラキラしていてとてもきれいです。



カージナルテトラ

カージナルテトラはブラジルのアマゾン川に生息する熱帯魚です。そのため水温は24~28℃が良いそうで、冬期はヒーターで水を温かく保ちます。寿命は2~3年で、最大4~5cmに育ちます。残念ながら、水槽内での繁殖は難しいそうです…。

ご利用者様からは「小さいから遠くからでは見えない」とお言葉をいただく事もありますが、そういった方には「では、一緒に見にいってみましょう！」とお誘いし眺めに行きます。そうすると「あら、かわいいねえ」と良い表情をされたり、しばらくの間水槽の前でじっと眺めたりする方もいらっしゃいます。

近くまで見に行かなくても「水草の明るい緑がとてもきれい」「癒されるわ」と声をかけて下さる方もおられ、利用者様それぞれに楽しまれている姿が見られます。

また、“眺めて楽しむ水槽”というだけではなく、水槽の管理もご利用者様と一緒にこなしています。現在は毎日行う餌やりをご利用者様にお願いし、ご利用者様と職員と一緒に熱帯魚の世話を開始しています。

こういった自宅ではなかなか行えないような活動をデイケアで行なってみることも、生活の中の楽しみの一つになったり、何か自信を取り戻すきっかけになったりするのではないかと考えています。

今後ご利用者様と共に水槽の中の世界を作り上げていきますので、館林記念病院 総合リハビリセンターにお立ち寄りの際は、ぜひ水槽の中ものぞいてみて下さい！